

3 戸惑いから定着へ ― 端的な成果

< 直接的な効果 > 「ごみ」から「資源」へのシフト

紙製およびプラスチック製容器・包装の収集量は、8月は合計1,846t（市民1人あたり850g）、9月は合計2,692t（同1,239g）でした。その結果、両月とも資源収集量が前年同月の2倍以上となりました。

9月についてみると、家庭の可燃ごみの3.5%が、紙製容器・包装として資源にシフトしました。また家庭の不燃ごみからは、22.7%がプラスチック製容器・包装として資源にシフトしました。

容積ベースでの減少はさらに大きく、各家庭で、ごみ袋の中身がガサッと減ることが実感されました。一方、紙製およびプラスチック製容器・包装の資源袋は大きく膨れ上がり、「収集回数が2週間に1回では足りない」との声が多数寄せられています。（容器・包装の収集回数については、来年度に向けて増加の方向で検討を進めています）

< 波及的な効果 > ごみ量の大幅な減少

8～9月の2ヶ月間の結果では、資源収集量の増加分（8月＝2.7千t、9月＝3.1千t）を大きく上回るごみ量の減少（8月＝14.8千t、9月＝16.2千t）が見られました。

「従来、チラシはごみ袋に入れていたが、集団資源回収に出すようにした。これだけごみ袋の中身が減ると、生ごみやちり紙以外はごみにしづらくなる。」という声に代表されるように、ごみ袋の中身がガサッと減った結果、新規資源化品目以外についても波及的に分別・資源化意識が働き始めたものと思われます。

これを裏付けるように、市民による自主的な資源化（集団資源回収、リサイクルステーションなど）の実績も、8月以降大幅な増加が伝えられています。

容器・包装の分別を契機に、改めて「無駄な容器・包装」や「分別・リサイクルに全く配慮していない商品」の多さに気づかされた市民の行動が、一時的な現象に終わらず、グリーンコンシューマーの主体的な行動として定着して行くことが期待されます。

9月の家庭系ごみ・資源の収集状況

	平成11年9月 (市民1人当)	平成12年9月 (市民1人当)	前年 同月比	②/①+② ④/③+④
可燃ごみ	45.1千t (20.8kg/人・月)	32.8千t ① (15.1kg/人・月)	△27.4%	
紙製容器包装	—	1.2千t ② (0.5kg/人・月)	—	3.5%
不燃ごみ	9.4千t (4.3kg/人・月)	5.2千t ③ (2.4kg/人・月)	△45.1%	
プラスチック製容器包装	—	1.5千t ④ (0.7kg/人・月)	—	22.7%
その他の資源	2.6千t (1.2kg/人・月)	3.0千t (1.4kg/人・月)	+15.8%	

名古屋市における家庭系ごみ・資源の収集状況

	平成 10 年度 (前年同期比)		平成 11 年度 (前年同期比)		平成 12 年度 (前年同期比)	
家庭系ごみ (市収集)	4-7 平均	64.5 千 t (+ 4.3%)	57.9 千 t (△10.2%)		52.4 千 t (△ 9.2%)	
	8 月	60.7 (+ 2.9%)	57.2 (△ 5.8%)		42.4 (△25.8%)	
	9 月	64.8 (+ 7.5%)	55.8 (△13.9%)		39.6 * (△29.0%)	
資源収集	4-7 平均	1.5 千 t (+17.1%)	2.1 千 t (+44.3%)		2.5 千 t (+17.9%)	
	8 月	1.7 (+22.4%)	2.7 (+62.0%)		5.4 (+104.1%)	
	9 月	1.6 (+18.8%)	2.6 (+61.8%)		5.7 (+120.3%)	
びん・缶 ・紙パック	4-7 平均	1.5	2.0		2.4	
	8 月	1.6	2.5		3.2	
	9 月	1.5	2.4		2.5	
ペットボトル	4-7 平均	0.03	0.1		0.2	
	8 月	0.1	0.2		0.5	
	9 月	0.1	0.2		0.5	
紙製 容器包装	4-7 平均	—	—		—	
	8 月	—	—		0.8	
	9 月	—	—		1.2 **	
プラスチック製 容器包装	4-7 平均	—	—		—	
	8 月	—	—		1.0	
	9 月	—	—		1.5 ***	
ごみ・資源 合計	4-7 平均	66.0 千 t (+ 4.6%)	60.0 千 t (△ 9.0%)		55.0 千 t (△ 8.4%)	
	8 月	62.4 (+ 3.2%)	59.9 (△ 4.0%)		47.8 (△20.0%)	
	9 月	66.4 (+ 7.7%)	58.4 (△12.1%)		45.3 (△22.4%)	

注 1) * 集中豪雨に伴う災害ごみ (32.1 千 t) を除いた数字。

** 540 g/人・月

*** 699 g/人・月

2) ⑩ 5 月：ペットボトル、紙パックの拠点回収開始。

⑪ 5 月：びん・缶収集の完全実施 (9 区 → 16 区へ拡大、ステーション方式)。

⑫ 8 月：紙製・プラスチック製容器包装の収集開始 (ステーション方式)。

ペットボトルのステーション収集開始 (拠点回収も継続)。

3) 一貫して増加を続けていたごみ量だが、平成 10 年 12 月以降減少に転じた。

紙製およびプラスチック製容器・包装の資源収集を開始した平成 12 年 8 月以降は、減少のペースがさらに高まっている。